

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要

学校名	熊本県球磨郡錦町立錦中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	0	13	24
生徒数	147	156	166	0	469	

研究の概要

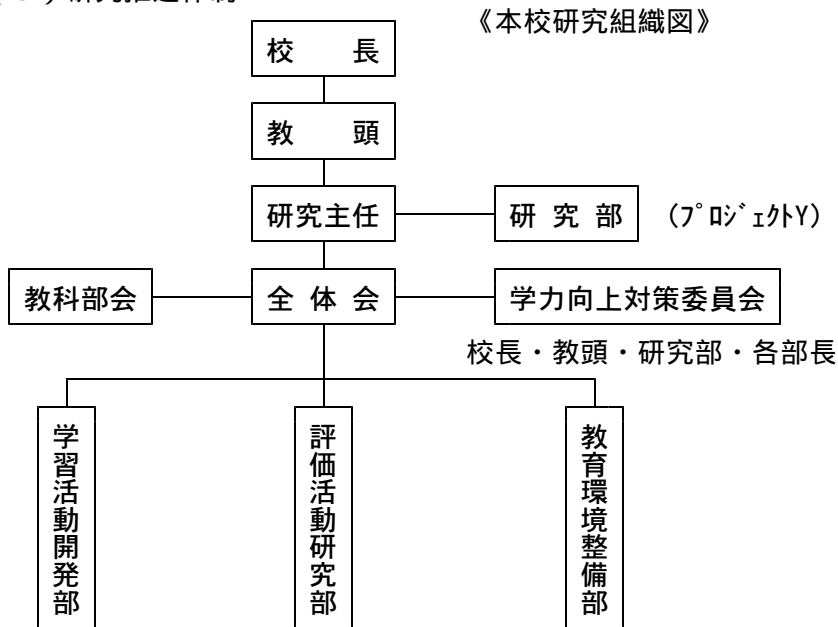
1. 研究主題 **生きる力の礎(いしづえ)を築く「学び」の創造**
 ~今日の学びが明日の学ぶ意欲につながる授業をめざして~
2. 研究内容と方法
 - (1) 実施学年・教科 全学年全教科領域による
 * 本校では、「学力」を知識や技能だけではなく、思考力・判断力・表現力等を含めた広義の視点でとらえており、全学年・全教科におけるさまざまな特色を生かし、実践することにより「確かな学力」の向上をめざすものとする。ただし、「個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善」については、教員加配を受けている数学と英語において少人数指導とT・T授業を通してその研究を深めている。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 礎(いしづえ)を築き、自己実現に向けた「学び」の創造 ~今日の学びが明日の学ぶ意欲につながる授業をめざして~</p> <p>研究の見通し(仮説) 「確かな学力」の向上に向けて、本校生徒の学習の実態を明らかにし、授業の展開の工夫と改善に努めるとともに、以下の取り組みを展開することで、特色ある学校づくりが実現できるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習活動開発部・評価活動研究部・教育環境整備部・調査統計啓発部を設置して指導・評価の充実、教育環境の整備、さらには生徒の学習実態の把握をめざす。 (2) 授業研を通して、「徹底指導と能動型学習のめりはりをつけた授業」の展開について、本校でのとらえ方を明らかにする。 (3) T・T授業や少人数授業の充実により、個に応じたきめ細かな指導の工夫や改善について検討する。 (4) 授業研を通して能動型学習の展開を図るための指導案作成を目指す。 (5) 時間割の弾力的運用により、選択授業で25分間授業を設定する。 (6) 全教科における評価基準表(年間計画)の作成をする。 (7) 生徒自ら自分達の課題に向き合い、「学習の心得」を作成する。 (8) 学習アンケートの実施により、錦中生徒の学習実態の分析を定期的に行う。
平成 15 年度	<p>テーマ 生きる力の礎(いしづえ)を築く「学び」の創造 ~今日の学びが明日の学ぶ意欲につながる授業をめざして~</p> <p>研究の見通し 第一年次の取組の成果や課題をその後の取組に生かすとともに、以下の項目についてさらに研究を深められたならば、生徒の「確かな学力」を向上させることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 徹底指導と能動型学習とのめりはりをつけた授業の展開を目指した指導案をもとに、指導法の工夫・改善を図る。 (2) T・T授業や少人数授業を通して、個に応じた指導の工夫・改善を図る。 (3) 1単位時間の授業での形成的評価や個人内評価についての研究を深める。 (4) 「単元別評価表」を作成し、生徒の基礎・基本の定着を図る。 (5) 生徒の学力の分析をし、生徒の実態を明らかにする。 (6) 生徒への「授業に関する学習アンケート」を実施し、授業の課題を明らかにし、授業改善に努める。 (7) 「錦の学習三原則」の徹底を図るとともに、校内の整備に努め、教育環境の充実を図る。

平成16年度	<p>テーマ 生きる力の礎(いずみ)を築く「学び」の創造 ～今日の学びが明日の学ぶ意欲につながる授業をめざして～</p> <p>研究の見通し 第二年次までの取組の成果や課題をその後の取組に生かすとともに、以下の項目についてさらに研究を深められたならば、生徒の「確かな学力」を身につけさせることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 「確かな学力」の定着に向けた錦中学校独自のカリキュラム編成に努める。 (2) 徹底指導と能動型学習とのめりはりをつけた授業の展開をめざした指導案をもとに、指導の充実を図る。 (3) T・T授業や少人数授業を通して、個に応じた指導の充実を図る。 (4) 学習のアンケート等を通して、生徒の実態を把握するとともに、改善すべき問題点を明らかにすることで、授業改善につなげる。 (5) 学充の時間や選択教科等での、発展的学習及び補充的学習の充実に努め、生徒の基礎・基本の定着を図る。 (6) 三年間の研究の成果を総括・分析するとともに、先進的な実践モデル校としてその取組について発表し、幅広く普及させる。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



* 昨年度は、専門部として学習活動開発部・評価活動研究部・教育環境整備部に加え、「調査統計啓発部」を設置していたが、教育環境整備部と統合し、研究の視点を焦点化した。

それぞれの部会のおいての活動重点目標は下記の通りである。

【学習活動開発部】
「熊本型教育」の実現を目指す指導方法の工夫と改善

【評価活動研究部】
個人内評価や形成的評価の手法を生かした評価活動の実践と基礎・基本の確かな定着

【教育環境整備部】
生徒の学習環境におけるハード面（施設・備品等）の整備とソフト面（生徒の学習意欲や学習態度等）の育成

平成15年度の研究成果及び今後の課題

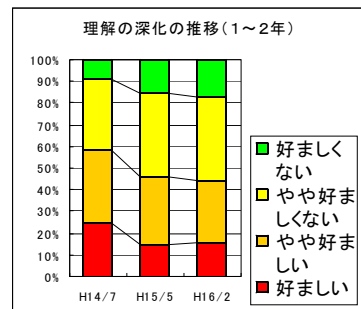
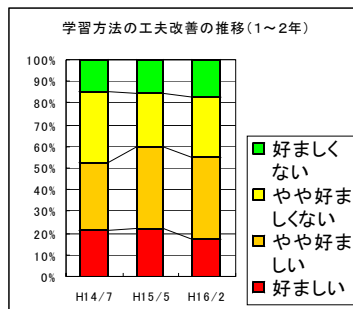
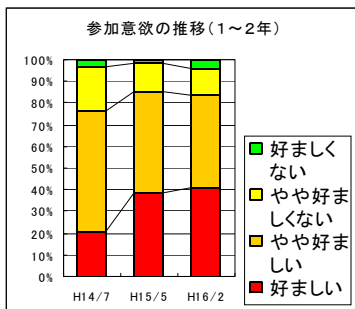
1. 研究の成果

(1) 学力に関する生徒の変容（学力に関する学習アンケートの分析 - 2年生）

【学ぼうとする力】

【学ぶ力】

【学んで得た力】

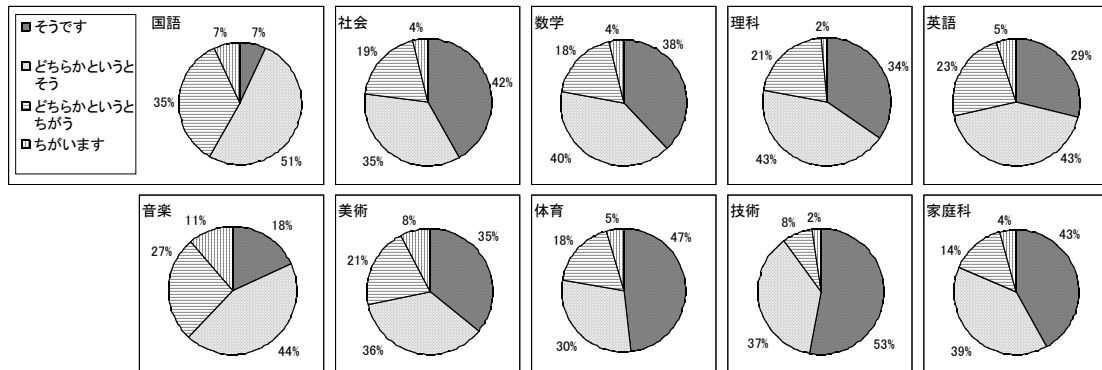


上記の集計グラフは、学力を【学ぼうとする力】【学ぶ力】【学んで得た力】の総合としてとらえ、各観点における重点項目の、現2年生の推移を表したものである。

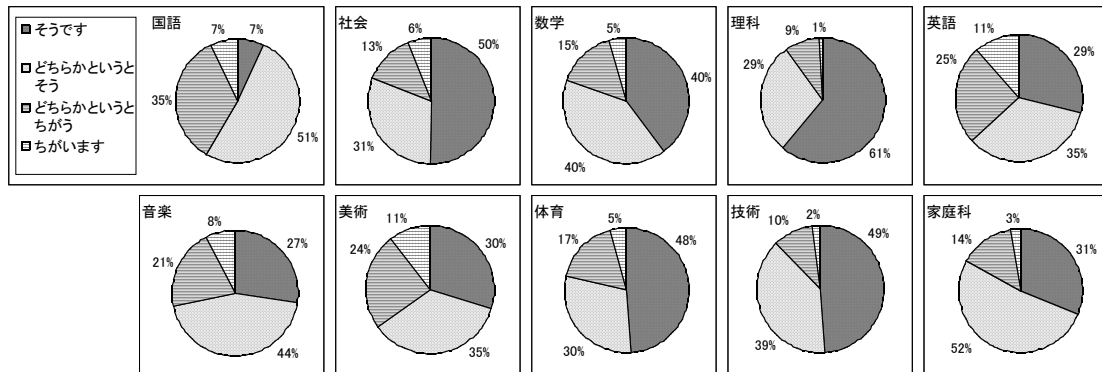
授業への参加意欲は高まっている傾向である。普段の授業でも、挙手や発言も多くなってきており、学習への意欲は明らかに向上していると評価できる。しかし、自分なりの学習方法が身につかず、依然として「勉強の仕方がわからない」といった状況が見られる。

それともない、学習内容も自分なりに納得できる理解がなされていない。「学習内容を理解したい」との意欲は高いため、学習方法が自分なりのやり方として身につけてくれば、学習内容の理解も深まってくると思われる。

(2) 各教科の授業に対する生徒の意識 (授業に関する学習アンケートの分析 - 2年生)
私は、 の授業が好きです。



私は、 の授業は、学習内容がよく分かります。



生徒の授業に対する意識については、全教科において「授業が好きです」、「学習内容がよく分かります」の質問に、半数以上の生徒が良好と答えている。また、質問において、各教科で同じ傾向が見られるのは、生徒にとって学習内容の理解と授業への好感が密接なつながりがあり、学習内容が理解できれば、その教科の授業も好きになり、学習意欲が高まるといえるのではないかと考えられる。これまでの授業に対する意識と現在の授業に対する意識は、明らかに変化(向上)し、授業での積極的な取組が見られるようになってきたことは、これまでの授業改善の取組が、生徒の授業に対する意識を高めたと評価できる。しかし、他の質問において全体的に低い数値を示している項目があったり、教科によって差が見られたりしている。このことは、授業改善が十分でないことの表れであり、生徒からのシビアな結果を、生徒の授業に対するニーズととらえ、今後さらなる授業改善に努める必要があると考える。

2. 今後の課題

(1) 学習活動開発部

生徒の主体的な学習を促すためにも、徹底指導と能動型学習とのめりはりをつけた授業をさらに意識するとともに、より効果的な学習指導や学習形態等の研究を進めていく。

少人数授業やT・T授業の実践に関しては、教師間の打ち合わせ等の時間の確保がなかなか難しい。しかし、生徒個々の習熟状況等の把握のためにも、放課後や昼休み等の時間を利用するなど、教師間の打ち合わせ等を綿密に行っていく必要がある。

(2) 評価活動研究部

生徒の学力向上を目指す上では、評価活動を授業に生かす手だてや方法をさらに開発する必要がある。そのためにも生徒の変容が分かるデータの蓄積と分析をしっかりと行い、生徒の実態に合った学習展開を目指すものとする。

(3) 教育環境整備部

学校校舎内外の環境整備(外的環境要素)のさらなる充実と整備はもちろんのこと、今後は道徳、学活、人権学習、生徒会活動を通して、お互いを認め合う心や思いやりの心など、支持的風土が存在する環境整備(内的環境要素)の取り組みが必要である。

